

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針だけでなく、グループホーム独自の基本理念を掲げる事で、職員皆の意識も強めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有を日々行なっていると共に、上半期、下半期には、理念の実践についてのまとめを、職員全員にて行っている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	基本方針の中でも、「地域」を強く意識した方針を掲げ、地域の中のグループホームとして、地域の方にも認識してもらえるよう、努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物外出や、お地藏さんへのお参り、お花の水交換、配食など外出の機会が多い中、挨拶はもちろん、気軽に立ち寄りしてもらえるように、日常的に関係づくりを行っていている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	学区・地域・商店街の行事には、積極的に参加し、地域の中のグループホームを意識して、交流を深めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ボランティア、施設見学、入居相談、研修など受け入れをしている。姉小路として地域の窓口相談、1階サロンのイベントを通して地域に開放している。</p> <p>GHでショートステイの認可があり、双方の状況に合わせ利用可能になれば、積極的に受け入れ役立ちたいと考えている。</p> <p>配食サービスを手伝い相手の方と親交を深め行き来を行</p>	○	<p>配食、お地藏さんの掃除を継続し、これからも自然な形で地域に役立てるよう取り組んでいく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全員で自己評価を行い、会議にてまとめ、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議のメンバーから得た、意見、情報を職員会議で伝えサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括センター職員から、市民研修、イベント等の情報を得る機会があるが参加には至っていない。</p>	○	<p>情報収集を図り、自分たちに出来る範囲で参加していくよう取り組んでいく。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、3名の方に成年後見が付かれ、1名の方は地域福祉権利擁護事業を利用されている。今後も、関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用出来るよう支援していく。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待が生じない為にも、認知症の正しい理解を持ち、職員会議で学習し、チームとして働き、何でも話し合える職員集団になっている。虐待はあってはならないことなので、職員全員で注意を払っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族が理解・納得されるまで、十分に説明を行い、疑問点・不安心を取り除いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価を受ける機会を持っており、その中で指摘を受けた点を中心に、改善を行うなど、それらを運営に生かしている。また苦情として上がってこない意見についても、それを運営に反映させる事ができている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>少しの変化でも、連絡をする事により、家族と一緒に支えているという意識を持ってもらえるよう、実践できている。また、可能な限り面会に来ていただけるよう、こまめに様々な働きかけも行っており、面会時には、往診医との連絡ノートも見てもらっている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部評価を受ける機会(年度末懇親会の他、年2～3回)を持っており、その中で指摘を受けた点を中心に、改善を行うなど、それらを運営に生かしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的な会話や会議だけでなく、ヒアリングを行う事で、聞き取りしている。また、その話の中で、より具体化できるものについては、早めの対応をとっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>2ユニットである事の利点を生かし、日中、夜間共に、相互協力体制をとる事ができている。また急変時にも対応できるよう、勤務調整だけでなく、いつでも連絡がとれる状態をとっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者や家族の不安心を最小限にするよう。必要最小限の異動に留める努力をしている。また、退職職員が出ないような配慮も日常的に行っているが、退職者が出た時には、その前後のフォローをしっかり行う事を心掛けている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での段階に応じた研修、外部研修に積極的に参加している。他のグループホームとの交換研修、自分で立てた研修計画に即し、学びたい研修、資格取得等、研修の機会を支援している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国認知症グループホーム協会、京都府認知症グループ協会に加盟し、定例会に参加。勉強会を通じ、相互の資質向上に役立っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に2回、管理職によりヒヤリングの場を設けている。姉小路での定期的な親睦会や、部門会議の後、食事に行く等、自然に話し合える機会を持っている。 有給、リフレッシュ休暇の有効活用。休憩の取り方を工夫している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日常的に把握していると共に、必要時には、個別でのヒアリングを実施している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス担当者会議を中心とした聞き取りを行なっているが、入居当初には、よりこまめに聞き取りを行なえる場作りもしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>サービス担当者会議を中心とした聞き取りを行なっているが、入居当初には、よりこまめに聞き取りを行なえる場作りや電話連絡をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野で考え、利用者に最も適した援助が行なえるよう、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要と判断される場合は、納得されるまで相談し、相互理解に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念の中にあるように、「共に」生活しているという意識を常々心に留めながら、共に支え合い、過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議を3ヶ月に1度は開催し、利用者と家族との関係を密に保ってもらっている。また行事時等には、可能な限り参加を呼びかけ、喜怒哀楽を共にしてもらえるような働きかけも行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お話頂ける範囲で、聞き取りを行い、これまでの関係を理解した上で、今後もより良い関係を保って頂けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や専門病院等、これまで築いてこられた関係を保ってもらえるように、支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、より関わり深く過ごされるように、支援している。また利用者同士でのコミュニケーションがやや困難な場合にも、職員が間に入る事で、関係を良好に保つように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により戻って来れない方で御主人がご高齢で合った事、姉小路との関わりを持ち続けたいと強い希望があった為、退去後も支援させて頂いた事例がある。家族へのフォローを忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議を一緒にさせて頂き、ご本人、ご家族から暮らし方の意向をお聞きし、ケアプランを作成している。時には、日々接している職員が、その方の思いを勘案し意向の把握を行なう事もある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。	○	暮らしの情報(家族の悩み・要望)、心身の情報(私のやりたいことや願い・要望)、利用者の嬉しい事、楽しい事、介護への願いや要望、苦痛や悲しみ等記録にとどめ、職員が入れ替わっても、自分が自分らしくあり続ける暮らしを構築する基を積み重ねていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	姉小路の基本方針として、一人一人のペースを尊重し、ゆっくり一緒に楽しく暮らすことをあげている。自分らしい生活を共に築いていくためにも、現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意見をもとに、部門会議でチームの意見をまとめ、3ヶ月に1度サービス担当者会議を実施できている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングを実施しており、また必要時、緊急時には、適宜計画書を見直し、サービス担当者会議を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌への記録を全職員行う事で、細かな情報を職員間で共有し、それを日常の介護、援助に結び付けられるよう、日常的な見直し、また会議での検討など行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のサロンを利用や2階のデイサービスの行事参加、また5階入居されている方との交流など、施設全体を生かした支援を行っている。また家族の希望があった際に、泊まって頂いた家族もあった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の商店には日常的に買い物をする事で理解が深まっている。ボランティアの数は少ないが、入居者の良い刺激となって訪問を喜ばれている。(犬を連れてきて下さる方。話し相手、お化粧品、ファッションセラピー等)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居されても、それまで通われていたデイケアに定期で通われていたが、機能低下の為、中断したケースがある。本人の必要性に応じて、日中、姉小路のデイサービスに短時間過ごす事で事も時々ある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして、情報交換等交換し、権利擁護等の長期的なケアマネジメントの相談を受ける機会となっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間オンコールのかかりつけ医と随時連絡を取り合い、適切な医療を受けられるよう、支援している。また2週間に一度は対面にて、往診を行ってもらっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>定期的に専門医を受診し、専門医の助言を頂きながら、日常的なケアに生かしている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>24時間オンコールの往診看護師と随時連絡を取り合い、また2週間に一度は対面にて、往診してもらっている。また同法人看護師と連携し、予防接種も実施している。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>見舞い時など、適宜病院関係者と情報交換しながら、協働している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>全キーパーソンから、契約時、サービス担当者会議時及び随時、ターミナルの聞き取りを行っている。また見取り指針も契約できている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族にできる事、できない事を伝えた上で、希望があれば、可能な限りチームとして支援していけるよう、取り組んでいる。またターミナルの意向を聞いてはいるものの、家族の気持ちの変化を察した上での精神面でのフォローにも努めている。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>個人情報の取扱いに充分注意しながら、必要事項は、ケア関係者で情報交換を行い、スムーズに移り住んでもらえるよう、努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけ、対応については、日常的に、相互指摘し合いながら意識して行っている。また、個人情報については、シュレッダーを利用し、取扱いを厳重に注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の意思決定を大切にしながら、できる事、できるかもしれない事に目を向けた援助を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしさ」を大切に、天候や気分、体調に応じて、相談し、食事メニューや外出先など決定し、支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服は自己決定してもらうよう働きかけ、また利美容も、ご本人の希望を大切に、ご本人の望まれる店に、希望の日に行けるよう努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も気づいていない利用者の能力を発揮してもらえる環境を作り、共に作る食事を楽しんでもらっている。また、片付けも共に行う事で、個々の役割にも意識するようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望時、ご本人持ち梅酒やおやつ等提供し、食事メニューに合わせて、ビールの提供も行っている。また、それらを一緒に買いに行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日頃からの観察、そしてチーム内情報交換により、この排泄パターンを掴み、援助に努めている。また排泄チェック表の記入も行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の意思確認を行い、希望を取り入れながら、必要時には、夕食後の入浴も行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に型にはめず、夜更かししたい方には、状況に応じた対応を取るなど、生活習慣を大切にしている。また安眠につながるように、日中の活動を増やすよう、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	臨機応変にさまざまな役割分担やマンツーマン対応などの支援行えている。具体的には、家事、裁縫、花の世話、外出(買い物、配食当番、お地藏さんなど)等、個々に合わせ、またその時の様子、状態に合わせて対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事での安心感を大切に、買い物の際には、できるだけ、自分のお金で、自分で購入してもらおう等、買い物の楽しみを継続できるよう、支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、気分に応じて、外出や屋上での外気浴等、皆さん1日1回以上は実施できている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご本人やご家族からの希望時または職員からの提案により行えている。具体的には、春の外出、秋の一泊旅行、季節ごとの外出など、共に外出する機会作り行えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	夜間含めた希望時等、ご家族や大切な人に、電話をかけてもらったり、年賀状や暑中見舞いなどの手紙のやり取りをしてもらったりして、関係性を継続してもらえるよう、支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	初めての方には来てもらいやすい環境、二回目以降の方には、また来たくなるような環境にする為に、ご本人と過ごす環境を大切にしながらも、職員も様子を見ながら、介入できる部分は、介入し、関係作りを図っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉により拘束の他、様々な拘束について、学習する機会を設けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事による弊害を常々感じており、日中玄関に鍵をかける事はしていない。また居室の鍵については、現在希望がない為、かけてはいないが、希望があった際には、なぜ鍵がいるのか、という理由を含めて、検討を行っていく。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーは大切にし、職員間で、連携をとりながら、利用者の所在確認には、充分注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものをただ取除くだけでなく、ご本人さんが必要なものであれば、どうすればいいか、を考え、対応している。また危険を防ぐために、学習している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故記録などを通して、学習する場を設け、事故が起こらないようにするだけでなく、起こった時の対処法についても、一人一人に合わせて想定し、取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、定期的実施している訓練により、全ての職員が対応できるようしている。またかかりつけ医や他職員との連携もできるよう実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年数回避難訓練を実施しており、利用者にも可能な限り参加してもらい、防災意識を高めてもらっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	大きな事故になる前に、起こりうるリスクについて、事前にご家族に説明、相談している。また対応策があれば、早急に対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変に気づいた時には、一人で判断せず、複数での確認徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、時間ごとの薬セットをする事で、職員皆が、薬に対する知識アップに繋げている。また、服薬前の誤薬防止確認、及び服薬時の服薬確認など、一つ一つについて、薬の大切さを認識した上での援助を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日のヨーグルトや水分摂取、また体を動かすなどの働きかけ行えている。また過剰な下剤摂取につながらないよう、排泄チェック表を使用し、かかりつけ医と適宜下剤の量などの見直しを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後は必ず実施しているものの、朝、昼食後については、全員の方の口腔ケアは実施していない。ただ、必要な方には、毎食後行っており、一人一人に応じた対応はとれている。	○	朝、昼食後の口腔ケアについても、さらに個別検討していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量を把握しながら、必要な方には、ゼリーやアイスクリームなど摂取してもらえやすいものを提供し、水分量確保に努めている。又食事量や栄養バランスについても、情報交換しながら、トータルで考え、支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修を通じて、学習する場を作り、またそれを全職員の共有にする為に、学習会を実施し、マニュアル化している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒には充分注意し、毎日の消毒・衛生管理を実施し、安全な食事の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の方には、口頭だけでなく、掲示板も使用し、建物の中の様子や利用者の様子を伝え、まずは、1階の喫茶を利用してもらおうなどしてもらっている。また家族にも、出入りしやすいように、居心地の良い空間作りを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音楽を取り入れ、不快感を取除くよう配慮したり、お花を生けるなどして、生活感、季節感感じてもらえる空間作りを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じ場所に皆でいてもらうのではなく、気の合った方と一緒にいたり、時には一人になったりできるよう、サブパブリックスペースや居室環境を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、以前より使い慣れたもの、思いで深いものを出来るだけ持ってきてもらえるよう働きかけ、快適で居心地よく過ごしてもらえるような居室作りを行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除時には、必ず換気しており、それ以外にも、適宜換気は行っている。また玄関の格子戸を利用したり、エアコンの使用だけでなく、冬場は加湿器を使用したりと臨機応変に対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には、手すりを設置したり、風呂場内に福祉用具を用意したりと、自身の力を少しでも発揮してもらえるような、工夫をしている。	○	ADL低下により、さらにハード面での充実が必要となってきた。個別検討にて、掘り起こし、安全確保に努めていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室内の衣類を整理できるよう、プレートをつけたり、自身で理解してもらえるようトイレの表示をしたりと、工夫を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや屋上の家庭菜園、ガーデニングを利用者と一緒に行い、楽しめる工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①理念を職員全体で考え掲げているので、常に理念が頭にあり、理念にそって、統一したケアの実践に努力していること。
- ②街中にあり、利便性を生かし、出掛ける機会が多い事。
- ③開設当初から、変わることなく、ご家族、友人の面会が多い事。
- ④医療との連携が図れ、24時間オンコールで看護師に相談できる事。その為、入居者の方やご家族の方の希望にそったターミナルケアが実践可能である事。
- ⑤商店街の行事や地蔵盆、お千度さんなどに参加するなど、地域交流が図れている事。
- ⑥屋上に花壇や菜園があり、入居者の方と一緒に育てている事。また屋上が入居者の方の気分転換、憩いの場所にもなっている事。